

「外から見たアメリカ」

アジア編



2026年

11月6日（金）

16:40-18:10 (5限)

今出川キャンパス

良心館 RY 101



山口 航

関西大学
政策創造学部

対等な日米関係？

日米関係の歴史では、「日米イコール・パートナーシップ」や「対等な日米関係」というスローガンが繰り返し用いられてきました。これは、日米が対等だと感じられていないことの裏返しでもあります。なぜならば、対等だと広く認識されているのなら、あえて当たり前のことを強調する意味はないからです。では、日米関係をどのように捉えればいいのでしょうか。本コロキウムでは、日米関係の特徴や課題について考えていきましょう。



横井和彦

同志社大学
経済学部

米中貿易「戦争」からみえてくるアメリカ経済の本質

経済のグローバル化によって世界経済は発展してきた。経済のグローバル化とは、基本的には資本（＝企業）が国と国との間を移動することをさす。経済のグローバル化が進んだ今日では、米中貿易「戦争」のような関税という手段は、全く意味がないどころか害悪でしかない。

本来貿易「戦争」に勝ち負けなどない。仮にアメリカの「勝ち」があるとしたら、貿易赤字減少ということになる。2023年には確かに減り、「勝った」かのようにみえるが、それは2020年の「第一段階の合意」があったからであり、むしろ関税では問題は解決しなかったのである。「休戦」延期という9月末の米中首脳会談の結末も必然である。